

# ハチに注意！！

## 1 はじめに

ハチは北のヒグマ、南のハブと並んで国内でもっとも恐ろしい動物のひとつといわれます。現に平成12年には塩尻市でも草刈作業中の方がハチに刺され死亡するという事故が発生しました。ちなみに、全国では毎年30名以上、ハチの発生の多い年には70名もの方がハチに刺されて亡くなっています。

しかし、森林や林業に携わる私たちはハチを避けて仕事はできませんし、ボランティア活動や総合的な学習により子供たちの野外活動が増加するなどこれからもハチと近づく機会は多くなります。そこで少しでもハチに刺されないようにハチの生態について解説します。

## 2 どんなハチが住んでいるのか

ハチの仲間は大変種類が多く、わかっているだけでも13万種類を超えるといわれています。林業に関係したものでもクリの枝に虫こぶを作るクリタマバチや木の幹へ卵を産み付けるキバチなどたくさんいます。しかし、ヒトを攻撃したり刺したりするハチで県内に生息するのはアシナガバチの仲間8種とスズメバチの仲間12種、それにミツバチ2種を加えて22種類くらいです。

今年、構内で見つかったハチの巣は20個ありましたが種類別はグラフのとおりです。

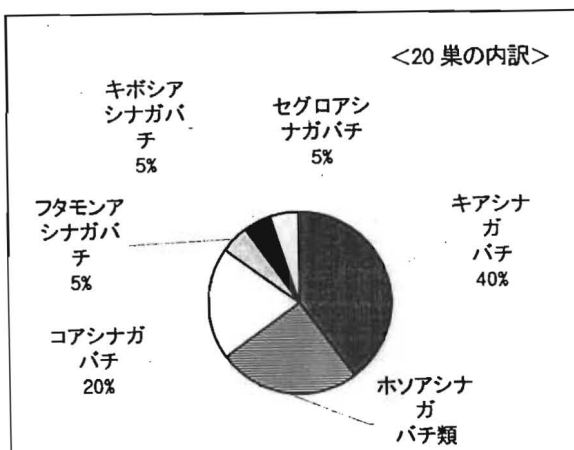


図-1 センター構内で見つかったハチの巣

## 3 アシナガバチの仲間

構内で普通に見られたのはキアシナガバチ、コアシナガバチとホソアシナガバチ類でした。

キアシナガバチは大型のアシナガバチで主に建物の軒先や地拵の棚で巣が見つかりました。セグロアシナガバチはキアシナガバチによく似ていますが平地に多いといわれ、森林に住む大型のアシナガバチはキアシナガバチといえます。(表紙)

コアシナガバチの巣は灌木の中や小屋のひさしにありました。小さい黒っぽいハチで、巣の形が反り返っていて特徴があります。

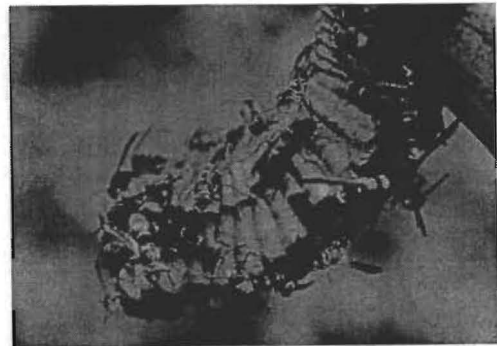


写真-1 反り返った巣のコアシナガバチ

ホソアシナガバチ類はよく似ている2種類がありますが、体が細くて弱々しい感じのハチで草の茂みや樹名板に巣がありました。

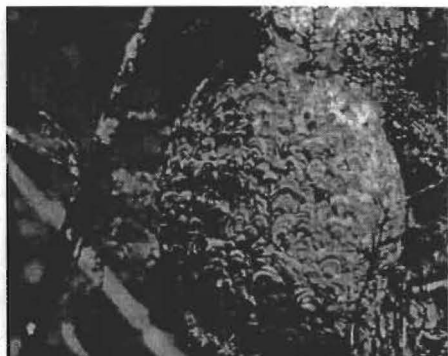


写真-2 細長い巣のヒメホソアシナガバチ

## 4 スズメバチの仲間

スズメバチは大型で死亡事故も多く恐怖を覚えます。よく軒先に大きな巣がぶら下がっているの

を見ますが、これははキイロスズメバチで県内ではアカバチ、アカンバチなどと呼ばれています。巣の規模が大きいことからオオスズメバチと間違われますが、オオスズメバチは地中の閉鎖空間に営巣し開放空間では巣を作りません。キイロスズメバチはセンターの軒先でも毎年営巣しています。



写真一三 カラマツの立木に巣をかけたキイロスズメバチ

また、営巣初期に徳利を逆さにしたような巣を作るコガタスズメバチや、県内ではおなじみの地蜂—クロスズメバチもスズメバチの仲間に入ります。クロスズメバチの他に針葉樹林帯にはシダクロスズメバチが住み、地蜂を追う人たちには区別して追っています。ハチの仲間は樹などの繊維を唾液と合わせて巣を作りますが、クロスズメバチやオオスズメバチの唾液は質がまいちで開放空間へは営巣できません。

また、ヤブのなかに灰色の和紙質の丸い巣を作るホオナガスズメバチ類の巣もよく見かけます。伊那市では笹蜂と呼ばれていました。



写真一四 ヤブのなかに巣をかけたキオビホオナガスズメバチ

## 5 ハチに刺されると

ハチに刺されたときの症状としては、激しい痛みのほか刺された場所を中心に症状が現れる局所

症状と、体中に症状があらわれる全身症状があります。局所症状は軽い症状といえますが、蜂毒アレルギーのある人の場合は全身症状がでて、ジンマシンや息苦しさ、めまい、さらに血圧低下や意識障害などを併発して危篤状態に陥り、命の危険がでてきます。

センターの研修生や職員のなかでも毎年全身症状があらわれ病院に行く事故が起こっています。森林組合の中には職員のアレルギー検査を行っている組合もありますが、山で働く人は全員がこの検査を受ける必要があると思います。

また、応急処置として決め手はないものの、濡れた手ぬぐいや沢水で冷やすことが、血管を収縮させ痛みや腫れを一時的におさえるといわれます。いずれにせよ、全身症状が起こるのは10～15分以内なので、気分が悪くなった人や以前に全身症状が出た人は速やかに医師の診断を受ける必要があります。

## 5 おわりに

ハチは最悪の場合、人命を奪うような強烈な害虫ですが、一方、長野県はハチを珍味としハチを追う文化があり、多くの県民がハチに関心を寄せています。また、オオスズメバチはマツノマダラカミキリの成虫を狩ることが観察され、多い日には1日に50個ほどのカミキリムシの肉団子を巣に運んだそうです。学会でもまだ知られていないようですが、オオスズメバチはマツノマダラカミキリの重要な天敵といえそうです。

こうしてみると、ハチは害虫という一面だけでは理解できない生き物で、特に長野県では深い関わりをもっている昆虫ということがわかります。山の仕事に関わる私たちは、好むと好まざるとに関わらずハチと接しないわけにはいきませんが、少しでもハチの生態を理解して無難につきあうことが大切と思われれます。

(指導部 松原)

### 【参考文献】

松浦 誠：「スズメバチはなぜ刺すか」、1985、北海道大学図書刊行会 (¥2,500)

松浦 誠：「社会性カリバチの生態と進化」、1995、北海道大学図書刊行会 (¥20,000)

※どちらもハチの生態について大変勉強になる本です。興味のある方は一読ください。